

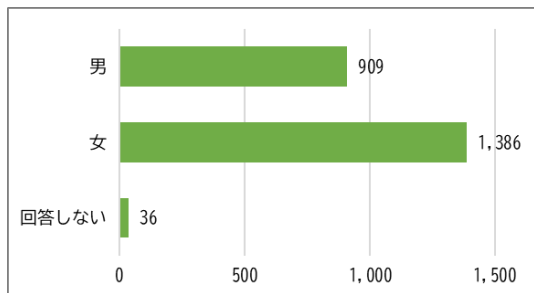
令和6年度 LINE を活用したアンケート 調査結果  
**「ごみ減量化・資源化に関するアンケート調査」**

テーマ	ごみ減量化・資源化について
目的	本市の1人1日当たりのごみ排出量は全国平均の約1.2倍と多く、令和4年度は1,080gでした。この調査では、ごみの減量を推進するために、市民の皆さまのごみ減量に対する意識調査から有効なごみ減量策を検討することを目的に実施いたしました。

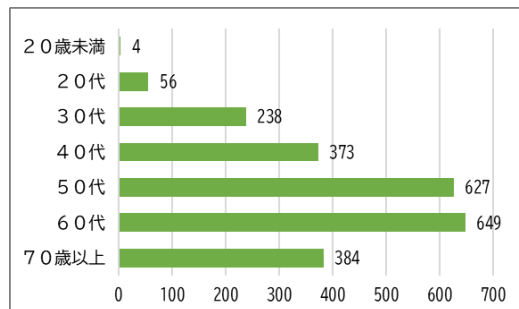
【調査期間】 令和6年11月14日(木)～11月28日(木)午前8時  
 【対象者数】 54,445名  
 (福島市公式LINE友だち登録者のうち、受信設定が市内かつアンケート同意者)  
 【回答者数】 2,331名  
 【回答率】 4.2%

【今回の回答者の基本属性】

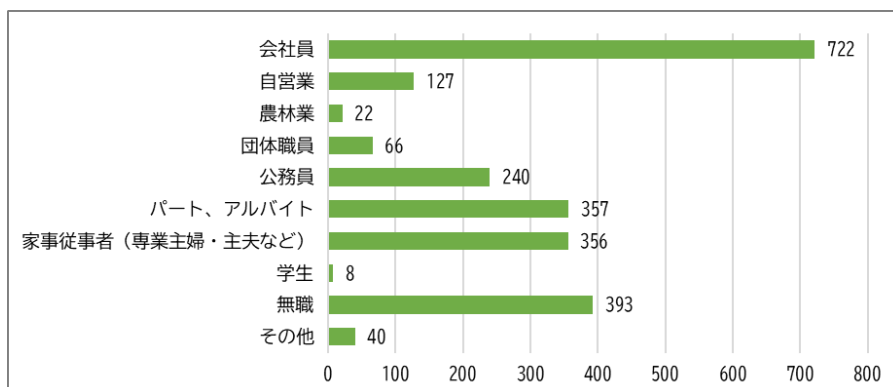
◆性別別回答者数



◆年齢別回答者数

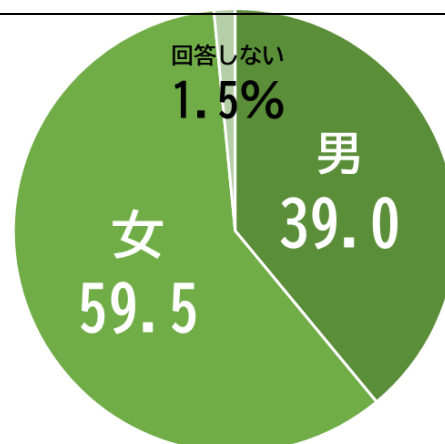


◆職業別回答者数



**問1** あなたの性別を教えてください

項目	回答数	割合
ア 男	909	39.0%
イ 女	1,386	59.5%
ウ 回答しない	36	1.5%
合計	2,331	100.0%



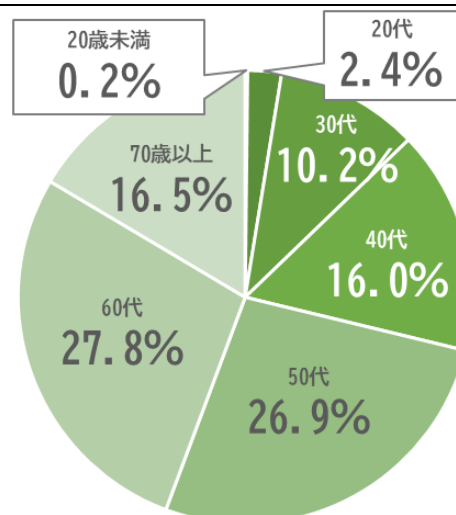
<回答数:2,331人>

**【ごみ減量推進課】**

アンケートに回答した方の約6割は女性、4割は男性でした。

**問2** あなたの年齢を教えてください

項目	回答数	割合
ア 20歳未満	4	0.2%
イ 20代	56	2.4%
ウ 30代	238	10.2%
エ 40代	373	16.0%
オ 50代	627	26.9%
カ 60代	649	27.8%
キ 70歳以上	384	16.5%
合計	2,331	100.0%



<回答数:2,331人>

**【ごみ減量推進課】**

アンケートに回答した方の年代は50代~60代が約半数を占めたものの、30代~70代以上までの幅広い世代から回答いただきました。

問3

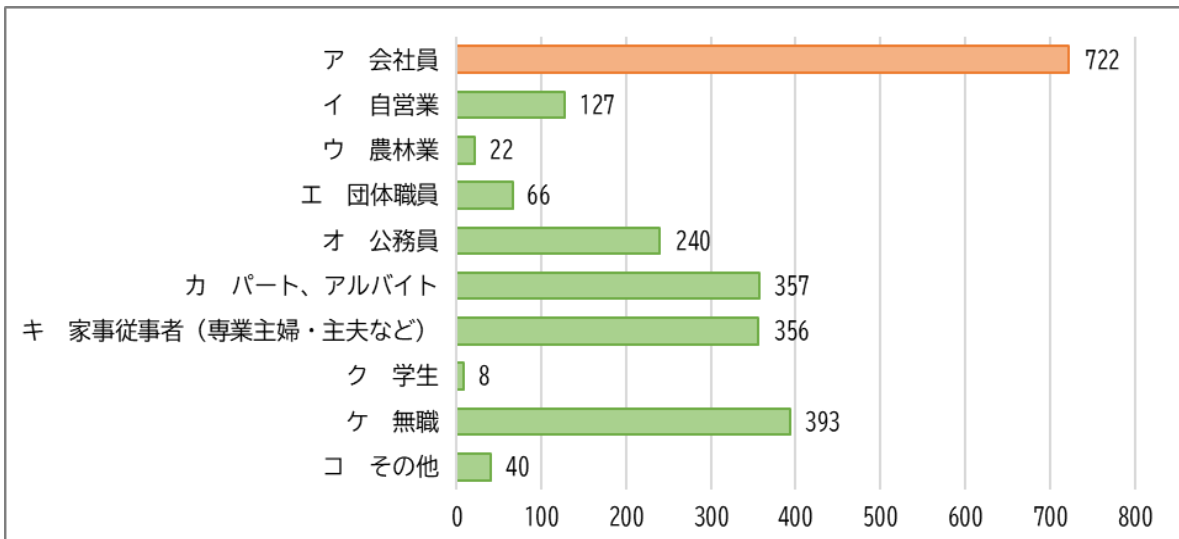
あなたのご職業を教えてください

項目	回答数	割合
ア 会社員	722	31.0%
イ 自営業	127	5.4%
ウ 農林業	22	0.9%
エ 団体職員	66	2.8%
オ 公務員	240	10.3%
カ パート、アルバイト	357	15.3%
キ 家事従事者（専業主婦・主夫など）	356	15.3%
ク 学生	8	0.3%
ケ 無職	393	16.9%
コ その他	40	1.7%
合計	2,331	100.0%

<回答数:2,331人>

<その他>

・派遣社員 など



【ごみ減量推進課】

「会社員」が 31.0%と最も多く、次いで「無職」が 16.9%、「パート、アルバイト」「家事従事者(専業主婦・主夫など)」が同率で 15.3%との結果になりました。

問4

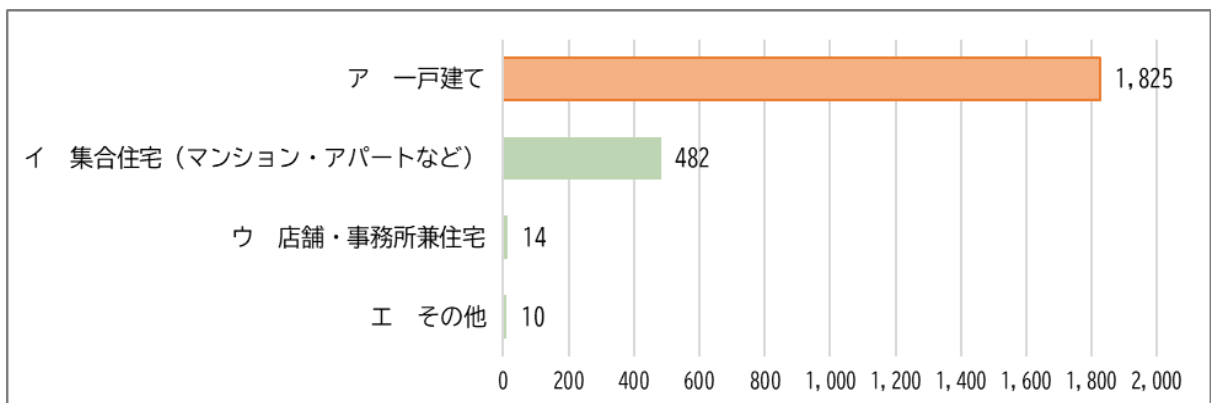
あなたのお住まいの形態は、どちらにあたりますか

項目	回答数	割合
ア 一戸建て	1,825	78.3%
イ 集合住宅（マンション・アパートなど）	482	20.7%
ウ 店舗・事務所兼住宅	14	0.6%
エ その他	10	0.4%
合計	2,331	100.0%

<回答数:2,331人>

<その他>

- ・事務所
- ・ホームレス など



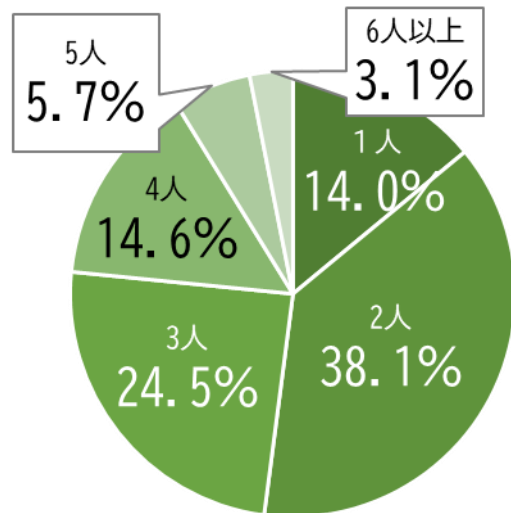
**【ごみ減量推進課】**

「一戸建て」が 78.3%と一番割合が多く、次いで「集合住宅(マンション・アパート)」が 20.7%との結果となりました。

問5

あなたを含め居住している人数は何人ですか

項目	回答数	割合
ア 1人	327	14.0%
イ 2人	887	38.1%
ウ 3人	571	24.5%
エ 4人	341	14.6%
オ 5人	132	5.7%
カ 6人以上	73	3.1%
合計	2,331	100.0%



<回答数:2,331人>

【ごみ減量推進課】

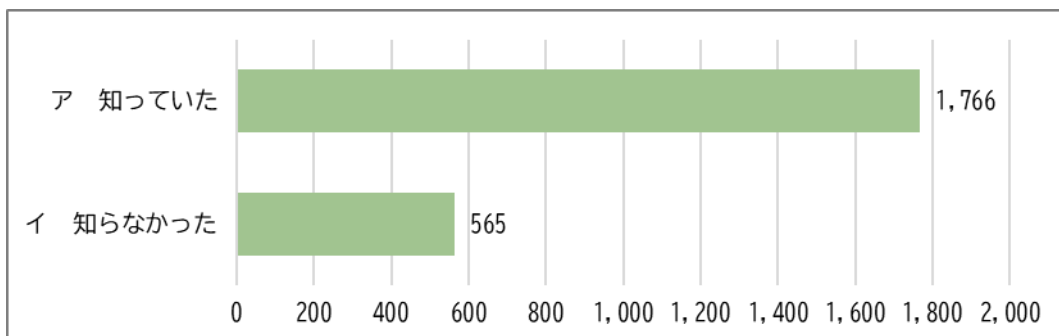
2人～3人世帯が半数以上を占める結果となりました。

問6

福島市の1人1日当たりのごみ排出量は1,080g、全国平均の880gより1.2倍と多い現状です。この現状をご存じでしたか。

項目	回答数	割合
ア 知っていた	1,766	75.8%
イ 知らなかった	565	24.2%
合計	2,331	100.0%

<回答数:2,331人>



【ごみ減量推進課】

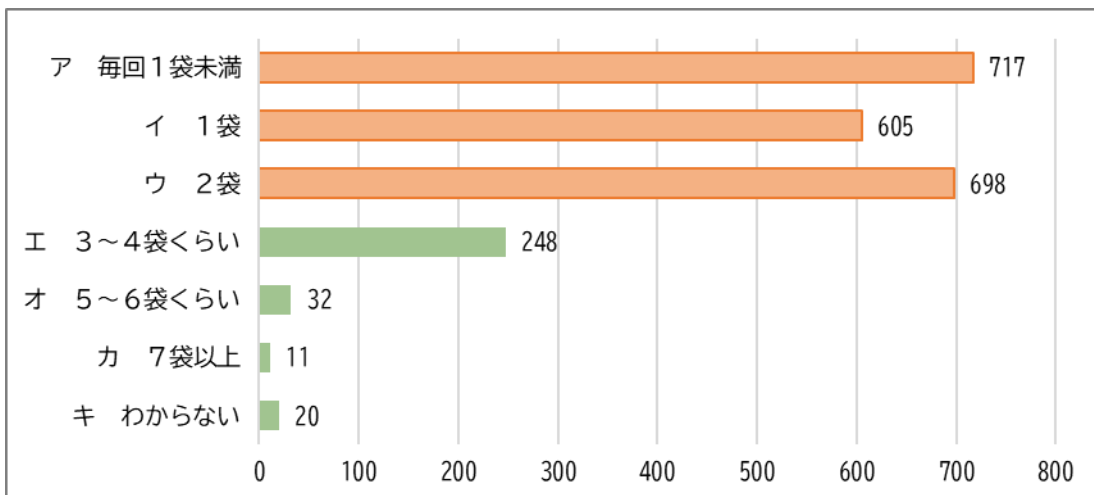
「知っていた」が75.8%となり、多くの方がごみ排出量に関する福島市の現状を認知していることがわかりました。

問7

あなたの世帯で1週間に出すごみの量は、45リットルのごみ袋に換算すると平均どのくらいの量になりますか。(可燃ごみのみでお答えください)

項目	回答数	割合
ア 毎回1袋未満	717	30.8%
イ 1袋	605	26.0%
ウ 2袋	698	29.9%
エ 3～4袋くらい	248	10.6%
オ 5～6袋くらい	32	1.4%
カ 7袋以上	11	0.5%
キ わからない	20	0.9%
合計	2,331	100.0%

<回答数:2,331人>



**【ごみ減量推進課】**

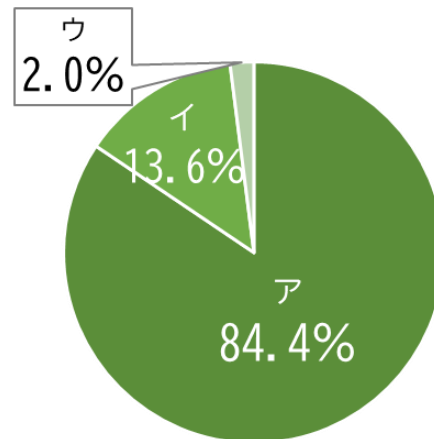
「毎回1袋未満」が30.8%、「1袋」が26.0%、「2袋」が29.9%と、2袋以下が全体の86.7%を占める結果となりました。

**問8**

あなたはごみの減量やリサイクルにつながる取り組みをしていますか。

項目	回答数	割合
ア 取り組んでいる（問9へ）	1,968	84.4%
イ あまり取り組んでいない（問10へ）	316	13.6%
ウ まったく取り組んでいない（問10へ）	47	2.0%
合計	2,331	100.0%

&lt;回答数:2,331人&gt;

**【ごみ減量推進課】**

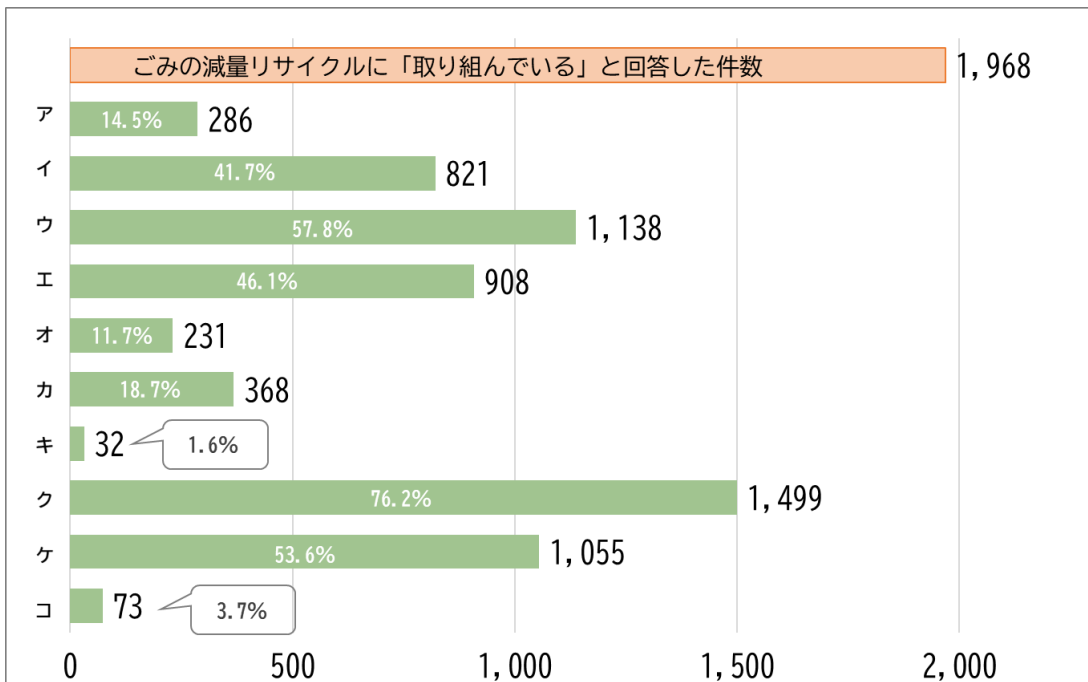
「取り組んでいる」が 84.4%を占めており、多くの市民の方がごみ減量やリサイクルにつながる取り組みを行っていることがわかりました。

問9

問8で「ア 取り組んでいる」を選んだ方にお聞きします。  
 ごみの減量化やリサイクルに向けて、あなたが普段心がける取り組みのうち上位3つを次の中から選んでください。

項目	回答数	「取り組んでいる」を選んだ人に対する割合
問8「ア 取り組んでいる」と回答した人	1,968	100.0%
ア キーロなどの生ごみ処理容器を活用し、生ごみを出さない生活を心がける	286	14.5%
イ 使い捨ての容器や割りばし等の使用を控えている	821	41.7%
ウ 食べきれない量の買い物はしない、食べ残しが出ない量を調理する等、食品ロスの削減に心がけている	1,138	57.8%
エ スーパー等の資源物回収ボックスを利用している	908	46.1%
オ バザーやフリーマーケット、リサイクルショップを利用している	231	11.7%
カ 雑草等を乾燥させる、枝類をチップ化するなど、草枝類の減量化や資源化に取り組んでいる	368	18.7%
キ ごみ減量やリサイクルに関する説明会等に参加している	32	1.6%
ク 汚れのあるプラスチック容器やペットボトルなどの資源物は洗ってリサイクルしている	1,499	76.2%
ケ 市のクリーンガイドブックに従いごみを分別している	1,055	53.6%
コ その他（自由記述）	73	3.7%

<回答数:6,411人>



<その他>

- ・ 過剰包装のものはさける
- ・ 文房具、水筒、洋服をリサイクルボックスへ入れている
- ・ 生ごみを出す際はよく押して水気を出し切ってから袋に入れる など

**【ごみ減量推進課】**

取り組みの多い順に、「資源物は洗ってリサイクルしている」が76.2%、「食品ロスの削減に取り組んでいる」が57.8%、「ごみを分別している」が53.6%となりました。

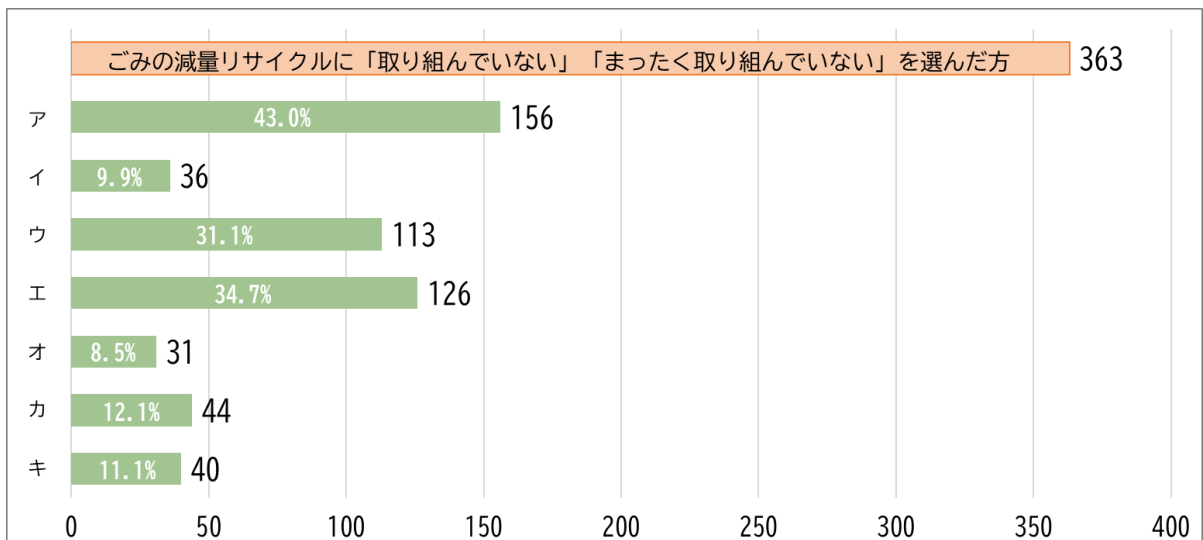


問10

問8で「イ あまり取り組んでいない」、「ウ まったく取り組んでいない」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。

項目	回答数	「取り組んでいない」「まったく取り組んでいない」を選んだ方に対する割合
問8「イ 取り組んでいない」「ウ まったく取り組んでいない」を選んだ方	363	100.0%
ア 取り組むだけの余裕がない（忙しくて時間がない）	156	43.0%
イ ごみに関心がない	36	9.9%
ウ 面倒だから	113	31.1%
エ 分別等をして、その後きちんとリサイクルされているかわからずやりがいがない	126	34.7%
オ なぜごみを減らさなければならないか、理由がわからない（メリットが感じられない）	31	8.5%
カ ごみの分別方法がわからない	44	12.1%
キ その他（自由記述）	40	11.0%

<回答数:546人>



<その他>

- ・資源物の回収日が少なく、置き場も少ないため、ため込む前に可燃ごみに出している
- ・元々ごみの排出量が少ないため
- ・おむつなど、可燃ごみとして排出せざるを得ないものが多いため
- ・購入する商品が過剰包装のため、意図せずごみが増えてしまうため

【ごみ減量推進課】

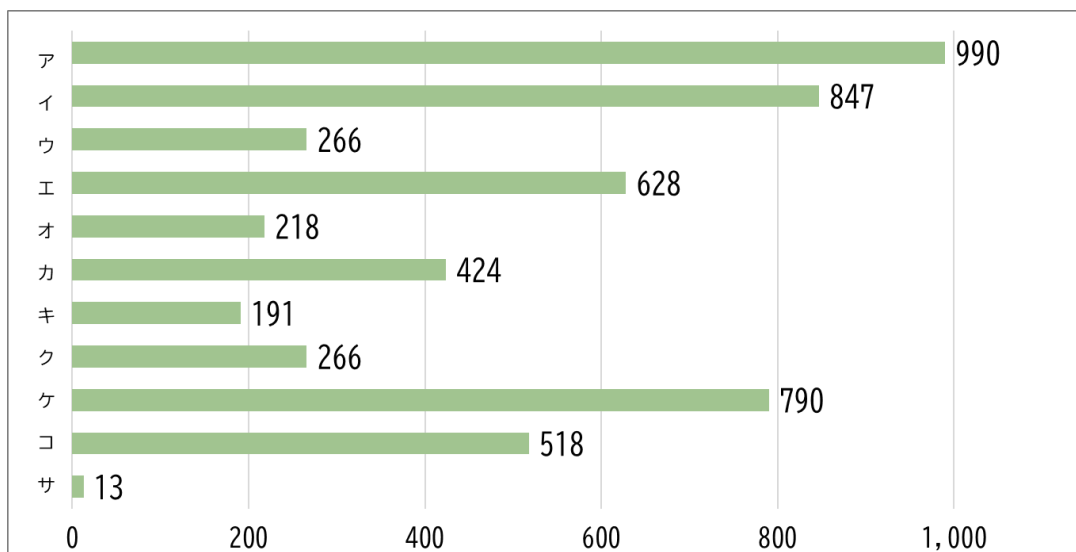
取り組んでいない方の理由として「忙しくて時間がない」が43%と最も多く、次いで「やりがいがない」「面倒」といった理由も多いことがわかりました。

問11

福島市のごみ減量施策をどのくらいご存知ですか。知っている施策をすべて選択してください。(複数回答可)

項目	回答数	アンケートにご協力いただいた方に対する割合
アンケートにご協力いただいた方	2,331	100.0%
ア 生ごみ処理容器購入費助成制度	990	42.5%
イ 生ごみ処理容器「キエーロ」の普及促進事業	847	36.3%
ウ 集団資源回収団体報奨金交付制度	266	11.4%
エ ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の導入	628	26.9%
オ 家庭用剪定枝破砕機貸与事業	218	9.4%
カ フードシェアリングサービス「ふくしまタスケ」の導入	424	18.2%
キ ごみ分別、ごみの減量をテーマとした「市政出前講座」の実施	191	8.2%
ク 使用済みはがき回収事業	266	11.4%
ケ 市政だよりや市公式SNS（LINE、Instagram等）を通じたごみ減量やリサイクルの呼びかけ	790	33.9%
コ 知っているものはない	518	22.2%
サ その他（自由記述）	13	0.6%

<回答数:5,151人>



<その他>

- ・フードドライブ など

**【ごみ減量推進課】**

「生ごみ処理容器購入費助成制度」が42.5%となりましたが、全ての項目で認知度が半数以下であることがわかりました。

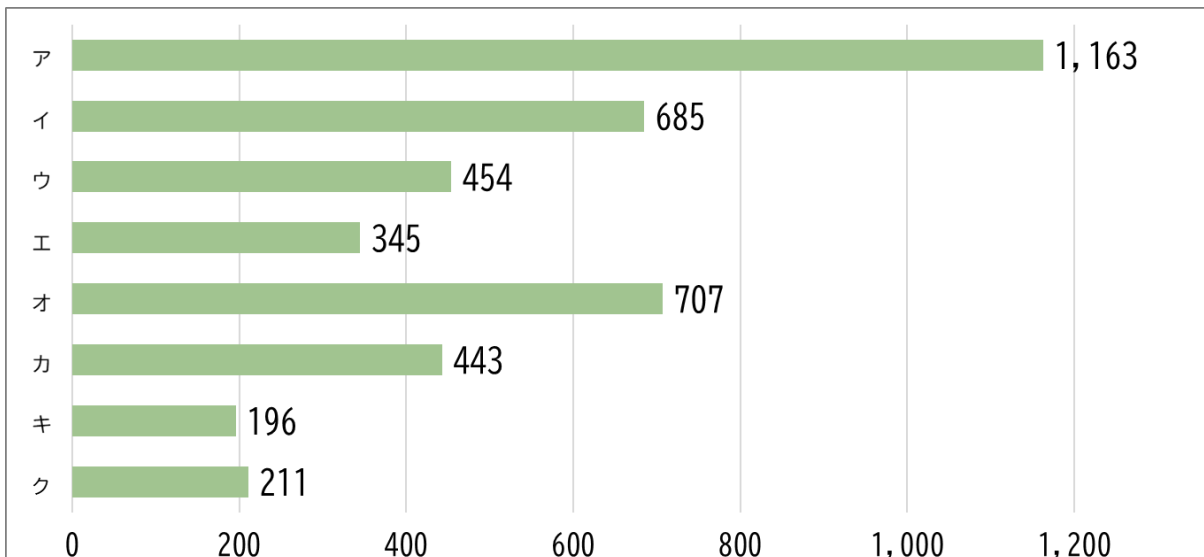
制度の周知・広報の手法を見直し、広報力を強化する必要があることがわかりました。

問12

ごみの減量化やリサイクルを進めていくために、福島市で力を入れて取り組んで欲しいことは、どのようなことですか。次の中から選んでください。(複数回答可)

項目	回答数	アンケートにご協力いただいた方に対する割合
アンケートにご協力いただいた方	2,331	100.0%
ア 公共施設等における資源物回収の拠点を設けるなど、資源物を出せる機会を増やす	1,163	49.9%
イ 生ごみ処理容器購入費助成金に対する支援を充実させる	685	29.4%
ウ 集団資源回収事業に対する支援を充実させる	454	19.5%
エ ごみ減量に関する講演会や関係施設の見学会の開催、情報誌の発行など、広報の充実に努める	345	14.8%
オ 資源物の分別収集品目を拡大する	707	30.3%
カ ごみの有料化を進める	443	19.0%
キ 特にない	196	8.4%
ク その他(自由記述)	211	9.1%

<回答数:4,204人>



<その他>

- ・ 5週目など資源物の収集日を増やしてほしい
- ・ 企業と連携するなどまだ使えるもののリユース施設を作してほしい
- ・ スーパーなどへの過剰包装抑制の指導をしてほしい
- ・ 資源物はコンテナに入れるなど、他市町村を参考に袋を使用しない回収方法にしてほしい
- ・ 資源物がどのようにリサイクルされるのかを広報してほしい

**【ごみ減量推進課】**

アンケートにご協力いただいた方の内、約半数の方が資源物を出せる機会を増やしてほしいと感じていることがわかりました。

次いで、「資源物の分別収集品目を拡大する」「生ごみ処理容器購入費助成金に対する支援を充実させる」が全体の約3割の方が希望していることがわかりました。

問13

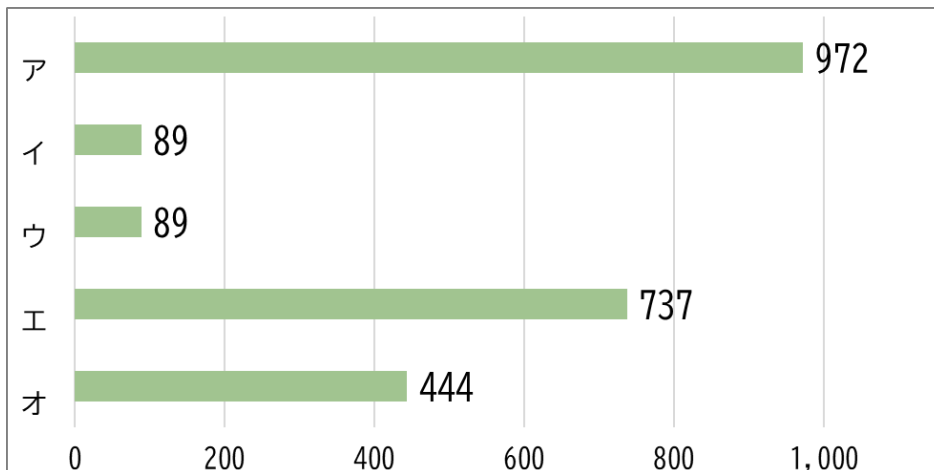
ごみの有料化は、ごみ袋の料金にごみ処理手数料を上乗せして負担いただく制度です。ごみの排出量に応じて負担額が変動するため、受益者負担の公平化が図られ、料金設定が高いほど、ごみ減量の効果が高まります。

ごみの有料化を導入する場合、あなたが妥当だと考える料金設定は次のうちどれですか。

例(可燃ごみの場合):全国平均は45リットルのごみ袋10枚499.5円(ごみ処理手数料込み)で、1週間に2袋使用する場合の年間負担額:5,195円

項目	回答数	割合
ア 45リットルのごみ袋10枚の料金が500円以下であればよい	972	41.7%
イ 45リットルのごみ袋10枚の料金が500円～600円であればよい	89	3.8%
ウ 45リットルのごみ袋10枚の料金が600円以上であっても減量のためにはやむを得ない	89	3.8%
エ 料金設定に関わらず有料化を導入すべきでない	737	31.6%
オ どちらともいえない	444	19.0%
合計	2,331	100.0%

<回答数:2,331人>



**【ごみ減量推進課】**

ごみ処理有料化の料金設定として、「45リットルのごみ袋10枚の料金が500円以下であればよい」が41.7%と最も多く、次いで「料金設定に関わらず有料化を導入すべきでない」が31.6%となりました。

**【ごみ減量推進課まとめ】**

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

平成28年度に実施した前回の調査結果と比較し、福島市の1人1日当たりのごみ排出量の現状を知っている人の割合が21.4%から75.8%へ大幅に上昇するなど、市民の「ごみ」への関心意識が高まっていることがわかりました。

一方で、市の施策の認知度が低いことや、資源物を排出しやすい仕組みづくりが求められていることなど、市民の皆さんの意識やニーズを捉えることができ、伝わる広報を心がけながら資源化の推進に力を入れて取り組む必要があることがわかりました。

今後も、市民の皆さまからの貴重なご意見を参考にしながら、ごみ資源化・減量化に関する取組みを推進していきます。ご協力ありがとうございました。

**【お問合せ先】**

福島市役所(〒960-8601 福島市五老内町3番1号)

《アンケート内容に関して》

《LINE アンケート制度に関して》

福島市環境部ごみ減量推進課ごみ減量推進係

福島市政策調整部広聴広報課

電話 024-525-3744(直通)

電話024-563-7488(直通)